

会長が理事をしているから歪むのか

加計報道問題の追及に会社はどう答えたか 下

2018年10月31日 団交

他紙と比べて質、量とも見劣り

藤井 加計の報道が、かなり他紙と比べて質、量ともに見劣りがする。10月7日に加計孝太郎さんが今治で会見している。それを報じる10月8日付の新聞各紙がどうだったかというのを調べている。山陽は、第2内政面（3面）に3段の扱いで本記だけが載っている。ごくごく地味な扱い。朝日は1面トップで載っている。2面に問題を掘り下げた「時々刻々」が載っていて、社会面でもサイド記事、一問一答、写真も載っている。10月10日付には「説明になっていない」というタイトルの社説を掲載している。毎日も10月8日付の紙面では、1面トップ。さらに、3面トップで経過表等を載せて、問題点等を掘り下げている。社会面では、まさに社会面らしい「加計氏 知らぬ存ぜぬ」という見出しの記事が出ている。中国新聞は、内政面（2面）実質トップで写真付きで報道している。安倍政権寄りといわれる読売、産経でも、山陽と同じ扱いでも社会面ないし第2社会面で報じている。読売、産経と比べても地味。以前の団交で労担は「岡山には加計のOBもたくさんいらっしゃるの、温かい目も必要だ」という答弁をされたが、加計に配慮するあまり、一般の県民・読者に問題の本質が伝わらないということになっていないかということに危惧している。これは本来は安倍政権の存否にかかわる問題であると認識している。国民が正しい判断をするための材料を提供するのが新聞の役目だと考えているので、あまり加計に配慮し過ぎるのはいかなものかと考える。

地元紙なりのスタンスがある

日下 地元紙なりのスタンスが、加計問題だけに限らず、あると考える。他紙と比べて、今回扱いの大きさ、掲載面に関しては違いがはっきり出ているが、別に加計に配慮したとかという思いはしていない。読者センターからの読者の声というのを毎日見させてもらっているが、加計学園の報道が手緩いという批判も数件はあったと思うが、それ以上に地元紙なんだから、温かい視点があっていいんじゃないかという、そういう声の方が多かったというのは、私の印象のなかでは厳然とある。

藤井 温かい視点が必要だと言われても、これ以上温かい視点を加えると載せるなどということになってしまう。

日下 是々非々で問題点は載せているので、そこは何ら問題ない。

藤井 それは違う。今回、加計孝太郎氏は、問題となった愛媛県の文書さえ見えていないと答えられているのだから、それ一つとっても、どれだけ加計の問題の取り組み方が甘いかということがはっきりしている。そここのところは、もっと突っ込まないといけない。しかし、山陽は本記だけしかない。これでは今回の会見の問題や、一連の問題は読者・県民に伝わらない。山陽新聞が「地域中核主読紙」とであると名乗るのであれば、きちんとした紙面をつくって読者に届けるというのが役目だ。いくら加計のOBがいても、必要な情報はきちんと読者に届けるべきだ。これ以上温かい視点を加えたら載せるなどい

うことになる。山陽は本記しか載っていないのだから。それも地味な扱いで。これ以上、配慮のしようのないほど配慮している。

日下 そんなに配慮しているつもりはない。

社説も1本も出ていない

藤井 山陽は社説も1本も出ていない。これもおかしいと思わないか。加計問題が大きくなる前は書いていたが、大きな問題になってからは1本も出ていない。これもおかしいだろう。これだけ騒がれていて、社説も書かれていない、書けてない。これもおかしいことだと思わないか。越宗会長が加計学園の理事になられているため、何らかの配慮が働いているのではないかと思わせるを得ない。それは越宗会長の命令なのか、松田社長の命令なのか、あるいは付度なのか。

日下 会長が理事をしているかどうかというのは関係ない。加計学園の問題は、地元紙として是々非々で臨んでいるということ。そもそも会長が理事をしているということを知らない社員もたくさんいる。別にそういう指示も下りたことはない。

付度というほどじゃない

藤井 指示がないとすれば付度か。

日下 付度というほどじゃないと思う。

藤井 編集の責任者は日下労担だから、日下労担から指示が出ているということか。

日下 そんな指示はしていない。

藤井 どうしてこういう紙面になるのか、毎回、毎回。通常なら1面に掲載するニュースだ。

日下 そこは日々のニュースとの兼ね合いじゃないのか。

藤田（岡山県労働組合会議常任幹事） 越宗会長が理事をされているのは、山陽新聞社の推薦、あるいは継続的に理事に送り出しているという関係か。

日下 あくまで越宗会長の場合は、越宗個人として、理事を受けたということだと思う。我々役員も理事をされているというのは、後で知った。

県民・国民的批判に応える紙面を

藤田 越宗会長が加計学園の理事として、学園の運営にかかわっている。運営について問題があり、仮にも山陽新聞社の方向と違うようなことがあったら、山陽新聞社として意見を言うことになるかと思う。今回の問題でいえば、愛媛県知事でさえ、あの会見がよく分からないと言っている。加計学園はやっと会見を開いて、理事長が説明されたけれども、愛媛県の文書も見えていないということで批判された。そういう運営が県民・国民的な批判を受けている。山陽新聞の会長が理事で出ておられて、そのような運営を是正するような意見を、本来なら述べる立場にあるのではないか。山陽新聞社としても、地元紙として、県民に判断材料を伝えるという意味では、もっと大きく扱うという立場がいるのではないか。それが逆に、会長が理事をされていることによって、山陽新

聞社の報道が委縮しているのではないかという感じを受ける人が多いのではないか。

日下 そういう疑念を持たれるとしたら、ご指摘のようなことがあるかなとは思いますが、ただ、越宗会長も地域とのつながりということで理事に就任したのだらうと思う。就実学園や川崎学園も、かつて理事を務めた役員もいるが、だからといって、就実学園や川崎学園を大きく取り上げろという議論になったことはない。会長が理事をしていることは事実だが、それ以上踏み込んで、会長から指示があったわけではないし、こちらからそれを議題にしたこともない。あくまで、この問題は、是々非々で臨めばいいと思っている。

取り上げていないことが問題

藤井 大きく取り上げることが問題ではなくて、取り上げていないことが問題なのだ。是々非々でと言われる

のなら、きちんと問題点を伝えるべきだ。本記だけではない、ほかにも解説記事もサイド記事も配信されるわけだから、そうした記事もきちんと使って、しかるべき紙面に、1面なら1面、社会面なら社会面にきちんと載せてやるということが大事なのではないか。これから、そういう報道にしていっていただけないか。あまりにも質量ともに、山陽の報道は見劣りがする。かえって、越宗会長が理事をしているから手加減しているんだらうと県民から見られるということの方が、山陽新聞社にとってはマイナスだと思う。日下労担は、編集の担当取締役なのだから、ちゃんと指示をして、きちっと載せろということ伝えてくれないか。そうしないと、付度が働いているのかもしれないから。

日下 そういうご意見があったことは重く受け止める。

「これでいいの？ 山陽新聞」フォーラムにご参加を

加計問題は、安倍首相が友人の加計孝太郎氏のために特区制度で便宜を図ったのではないかという、時の首相の政権運営にかかわる問題です。これまでのシリーズで見てきたとおり、山陽の報道は、読者に判断材料を提供するという新聞の使命を果たしていません。越宗孝昌会長が加計学園の理事をしているからでしょうか。団交では、会社はその点は関係ない、会長、社長からもそのような指示も出ていないと言います。だとすれば、付度ということでしょうか。

組合分裂が会社によって持ち込まれて半世紀以上。小さな組合の異論など、生協・団交の間だけ耳を塞いで聞き流しておけばいい。そうしておけば、あとはだれも文句を言う者はいないのだから。そんな会社の思いが透けて見えます。

いま、私たちは、組合の運動方針を理由に、正副委員長が40年働いた印刷職場から排除されるという組合弾圧と闘っています。加計報道の異常さと組合弾圧、根はいっしょではないか、と私たちは考えています。即ち、山陽新聞社には、正義に対する畏れがないのです。自分たちこそがルールであり、何でも自分たちの思い通りになると考えています。半世紀前の組合4役5人を解雇した組合弾圧や、その発端となった岡山・倉敷合併100万都市偏向報道も、チボリ偏向報道もそうでした。そして、盾突く者は無視し、あるいは排除する。その体質は、いくら社屋が立派になっても変わっていません。これで、いいのでしょうか。

組合は、年末27日の団交で、会社に出向拒否問題で早期解決の意思があるかどうかを1月4日までに示すよう求めていましたが、同日、「2人を早島工場に出向させない方針は変わらない」と回答してきました。そのため、組合と新聞労連は、2月8日に「前川喜平さんと考えるメディアのあり方 これっていいの？ 山陽新聞」のテーマでフォーラムを開くことを決めました。

元文部科学事務次官の前川喜平さんを招いて開く同フォーラムでは、市民と問題意識を共有し、山陽新聞が読者・県民にとってなくてはならない新聞になるための方途を考えたいと思っています。会場は岡山市勤労者福祉センター、午後6時半からです。第一労組の皆さんも、ぜひご参加ください。私たちの手で、山陽新聞を変えていきましょう。

2019年1月17日

山陽新聞労働組合ニュース

e-mail: sanyoshimbunroso@yahoo.co.jp